



昭和7年頃：地下鉄工事の様子



昭和12年：完成当時の御堂筋

世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ。



平成28年：御堂筋オータムパーティー



Vision for MIDO-SUJI 100 Anniversary

御堂筋 将来ビジョン

みちから まちを変えていく

～道路は、まちを変えていく力を持っています～

御堂筋完成80周年記念事業推進委員会

はじめに

大阪市のメインストリートである御堂筋は、第一次都市計画事業の中心プロジェクトとして、当時幅員 6 メートルの道路を 44 メートルに拡幅するなど、梅田から難波を結ぶ大幹線道路として昭和 12 年に完成し、平成 29 年 5 月 11 日に完成 80 周年を迎えました。

この御堂筋将来ビジョンは、完成 80 周年を契機として、車から人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方について検討を行い、御堂筋の将来像を分かりやすくビジュアルを用いて取りまとめたものです。

【御堂筋の概要】

大阪のメインストリートである御堂筋は、国道 25 号と国道 176 号から構成される幅員 44m、延長 4.2km(阪急前交差点～難波西口交差点)の道路であり、季節毎に変化をするイチョウ並木や高さのそろった沿道建物により美しい風景を創り上げるなど、市民をはじめ多くの方に親しまれています。

また、大阪一の業務集積地区である御堂筋沿道には、業務ビルだけでなく、ブランドショップなども立ち並び、新たな魅力を創出しています。そして近年では、御堂筋オータムパーティーをはじめ、御堂筋全体を圧倒的な光で彩る御堂筋イルミネーションなどのイベントにも活用され、大阪の都市魅力向上においても重要な役割を担っています。



目次

はじめに・目次

1. ステートメント「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」	1
2. 都市の成長を牽引するメインストリート	2
3. 御堂筋の未来に向けて	4
4. 御堂筋将来ビジョン	6
5. 段階的な空間再編	14
6. ビジョン実現に向けたファーストステップ	16
7. 御堂筋完成80周年記念事業	20
将来ビジョンの実現に向けて	25

1. ステートメント

Statement

「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」

～まちとつながり、人がつながっていく
新たな価値を創出する空間へ～

アジアにおける諸都市の発展など、都市間競争は激化しています。このような状況の中で、世界の中の大阪、日本の中の大阪の存在感を際立たせていくために、都心の活性化、都市部の価値向上を促進する都市構造のリノベーションが必要となっています。

大阪における御堂筋周辺地域は、国土軸にある新大阪駅から、うめきた地区のある梅田を經由し、関西国際空港と直結している難波といった大阪の主要交通の結節点となっており、人・モノ・資金・情報が集積するエリアとなっています。関西都市圏では、近い将来、リニア中央新幹線や北陸新幹線、大阪都市再生環状道路といった広域交通インフラが概成し、大阪のポテンシャルはさらに高まっていくことが期待されています。このタイミングにあわせて、都心の構造を人中心に変えていく必要があると考えており、都心部を貫く御堂筋を人中心のストリートへと空間再編することをきっかけに都市構造のリノベーションを推進していきます。

この空間再編においては、多様な人材や企業が集い、新しい出会いやビジネスチャンスが創出されることで、企業活動の活性化、都市魅力の向上を促し、世界に誇れる自慢のストリートになることをめざしていきます。これまで、車中心の移動空間であった御堂筋を、「ひと」と「ひと」がつながり、「ひと」と「まち」がつながることで、新たな価値を創出できる人中心のストリートに転換していきます。

平成 29 年 5 月 11 日に、御堂筋は完成 80 周年を迎えました。その記念事業として、市民をはじめ多くの方が夢を描くことのできる御堂筋の将来像を検討し、ビジョンとして取りまとめました。「世界最新モデルとなる、人中心のストリート」の実現に向けて、御堂筋の空間再編事業を本格的にスタートします。

平成 30 年 7 月
御堂筋完成 80 周年記念事業推進委員会
委員長 吉村洋文



2. 都市の成長を牽引するメインストリート

(1) 新たな価値を生み出す御堂筋

国際社会のグローバル化、少子高齢社会の進展など、都市を取り巻く社会環境、経済情勢は大きく変化をしています。こうした変化は、国際的な都市間競争を誘発し、各主要都市では世界規模で競争に勝ち抜く取組みが進められています。そのような中、都市間競争において選ばれる都市になるためには、都市魅力が高く世界中から人・モノ・資金・情報を呼び込み、経済成長のエンジンとなることが求められており、それを牽引する都心の活性化、都心部の価値向上を促進する都市構造のリノベーションが必要であると言われています。

御堂筋周辺地域においては、大阪の伝統と革新がうみだす世界的ブランドストリート＜歩いて楽しめ、24時間稼働する多機能エリアへ＞というまちづくりのコンセプトのもと、沿道建物の誘導などの都市施策が進められています。こうした施策により、主要施設の建替えや企業誘致等が進展し、都市機能の更新と御堂筋のブランド向上、にぎわいの創出が図られるなど、大阪都心部における都市構造のリノベーション面で一定の効果が見られます。

こうした都市施策とともに、更なる都心部の価値向上を図る手法として、道路空間の再編があげられます。ニューヨーク市のブロードウェイやメルボルン市のスワンストンストリートなど世界主要都市では、都市間競争に打ち勝つべく、車中心の道路空間から、多様な利用者が共存する道路空間に再編されています。



御堂筋のまちなみ



130メートルを超える高層ビル
「本町ガーデンシティ」

【世界主要都市における道路空間の有効活用、再編】

スワンストンストリート
(オーストラリア
メルボルン市)



整備前



整備後

道路は、まちを変えていく力を持っています。

道路空間の再編を通じて都心部の価値を向上させていくためには、現在の課題解決を図るだけでなく、これまでの功績を振り返るとともに、来るべき未来の姿を見据えて、そのあり方を示していくことが必要であると考えています。御堂筋の過去を振り返ると、關一(せきはじめ)第七代大阪市長が進めた拡幅工事では、大阪の経済発展のために100年先を見据えて、景観的、交通機能的に優れた御堂筋へと整備することで、御堂筋沿道に金融機関などを呼び込み、関西一のビジネスゾーンに発展させてきました。

こうした経緯からも、道路には、まちを変えていく力があり、都市構造のリノベーションに影響を与える大きな力を持っていると言えます。

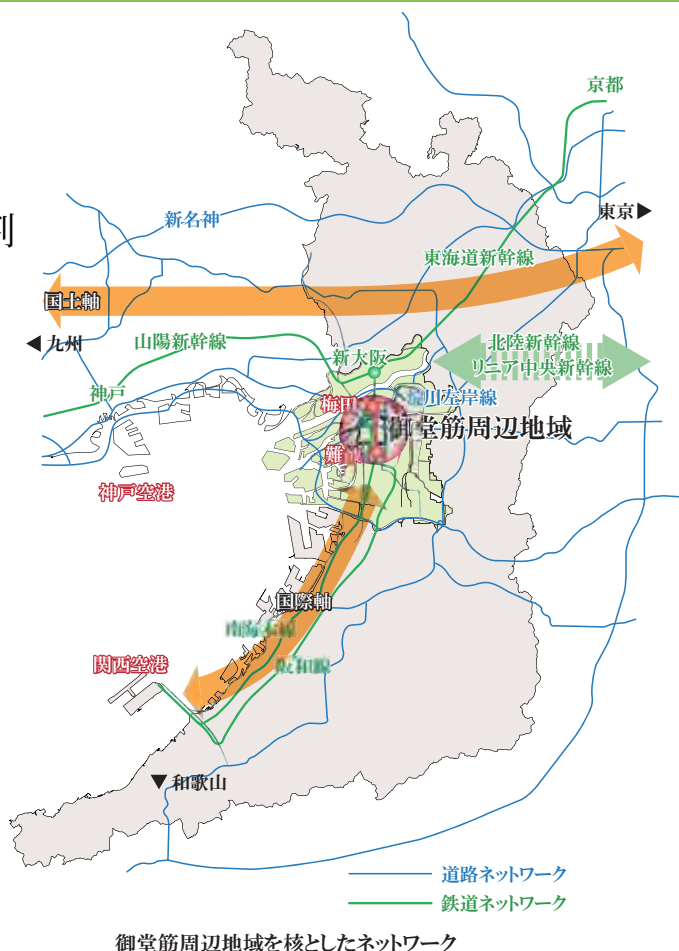
Mission

(2) 関西都市圏・大阪における御堂筋の役割

大阪都市再生環状道路の整備や、北陸新幹線・リニア中央新幹線といった交通インフラ整備により、関西都市圏を取り巻く環境は今後 20 ～ 30 年で大きく変化をすることが予想されます。こうしたインフラ整備は、関東地方等との結節点であり西日本の玄関口となる新大阪から、大阪・梅田を経由し、関西国際空港に直結している難波を結ぶ御堂筋に、これまで以上に国内外から人・モノ・資金・情報がもたらされることになります。一方、大阪駅周辺地区や難波地区などの御堂筋周辺においても、様々な拠点開発が進められています。

御堂筋においては、現在でも業務・商業などの都市機能が集積し、都心部として多様なポテンシャルを有していますが、こうした広域交通インフラや中枢拠点の整備により、関西都市圏・大阪における御堂筋の役割は更に重要となります。

このタイミングをとらえ、御堂筋を人中心のストリートへ空間再編することを契機に都市構造のリノベーションを推進していきます。



【御堂筋が持つ現在のポテンシャル】

新たなビジネスチャンスやイノベーション機会の創出、情報の発信拠点などとして、高いポテンシャルを持つ御堂筋は、空間再編を契機として都市構造のリノベーションを促すことが可能。

【都市機能】 企業、商業が高密度に集積

【立地】 交通拠点への優れたアクセス性

【広域連携】 京阪神3都市での連携体制

【活力】 民間・エリアマネジメント活動の活発化

【生活】 住居系・宿泊施設などのサービス系施設の増加

【御堂筋周辺地域を核としたネットワーク構築】

御堂筋の関西都市圏・大阪経済の中枢を担うといった役割がこれまで以上に拡大

御堂筋はこれまで以上に、関西都市圏・大阪経済の中枢、大阪の成長を支えるエンジンになることが求められます。多様な人材や企業が集積し、新しい出会いやビジネスチャンスを創出することで、御堂筋に人・モノ・資金・情報といった都市資源を呼び込み、ひいては呼び込んだ都市資源の交流、新たな魅力や価値の創出、そして、それらを世界に向けて発信するといった循環を促すことのできる“ストリート”へと転換をしていくことが求められます。

新たな価値を生み出す“ストリート”への転換



3. 御堂筋の未来に向けて

(1) 御堂筋の変遷

拡張以前の御堂筋は、道幅 6 メートル、北の淡路町から南の長堀まで約 1.3 キロメートルの狭く短い道でした。その御堂筋を幅 44 メートル、南北に延びること約 4 キロメートルの道にするという關市長の構想は当時の常識では考えられないものでした。工事にかかる莫大な費用、地下鉄工事と同時に行うというこれまでに例のない難工事といった困難を乗り越え、御堂筋は昭和 12 年 5 月 11 日に開通の日を迎えます。

そして、御堂筋完成から約 30 年後の昭和 40 年頃には空前のマイカーブームが到来し、広大な道幅を誇る御堂筋にも交通混雑が見られるようになります。こうした状況から、大阪万博の開催年となる昭和 45 年には交通問題の一層の深刻化を予測し、御堂筋をはじめとした大阪都心の幹線道路を双方向通行から一方通行に切り替えました。

御堂筋は時代のトレンドに合わせて変遷を遂げてきました。



拡張前の御堂筋

写真出典：大阪歴史博物館



拡張後の御堂筋

写真出典：大阪歴史博物館



昭和40年頃 対面通行の御堂筋

写真出典：大阪歴史博物館



現在の御堂筋

また、昭和 58 年には道路空間を最大限に活用したイベントである御堂筋パレードが開催されます。近年では御堂筋オータムパーティーをはじめとした公民協働によるイベント等も行われ、来訪した人びとを魅了しています。

そのほかにも、世界的に一級である彫刻家の作品が並ぶ「御堂筋彫刻ストリート」の整備、沿道建物のまちなみ誘導など、御堂筋は時代のトレンドに合わせて変遷を遂げてきました。

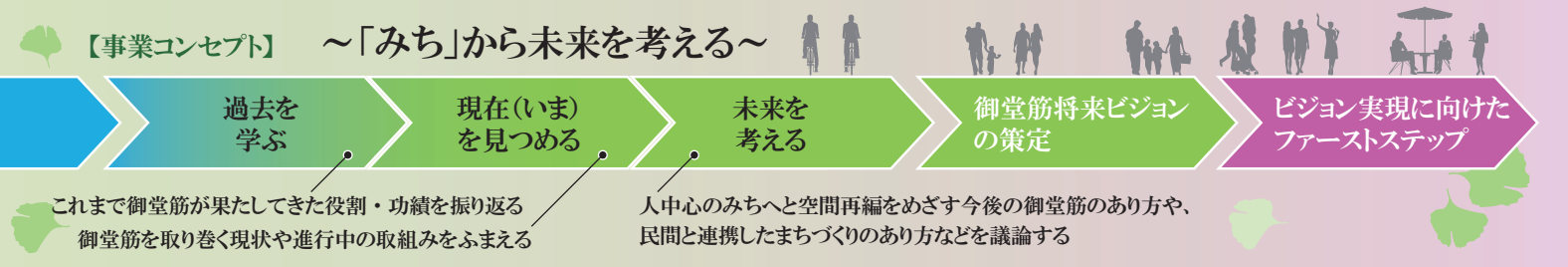
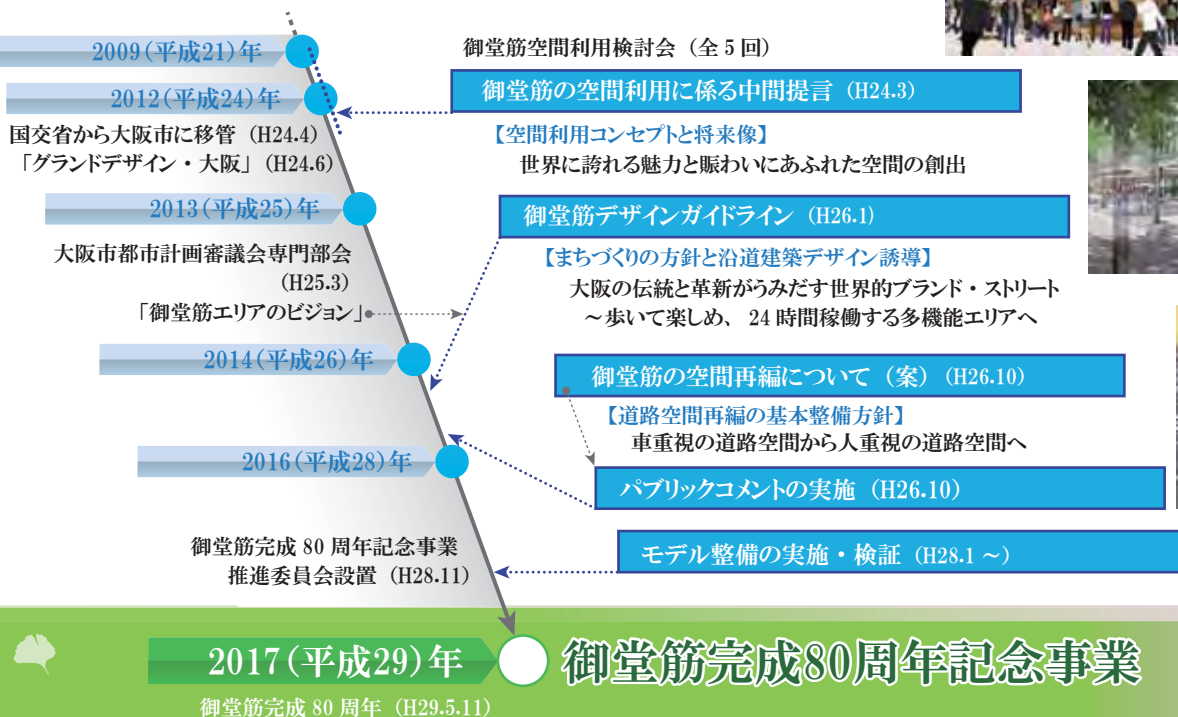
(2) 御堂筋将来ビジョン策定の契機「御堂筋完成80周年記念事業」

御堂筋の将来については、時代の流れにより求められる道路空間機能の変化を受けて、御堂筋及びその周辺地域における人々の行動形態やまちの状況をふまえ、様々なかたちで議論、検討が行われてきました。

平成 29 年 5 月 11 日に完成 80 周年を迎えたことを契機として、御堂筋完成 80 周年記念事業を実施しています。記念事業では、そのコンセプトを『～「みち」から未来を考える～』とし、過去、現在、未来を見つめながら、人中心のみちへと空間再編をめざす今後の御堂筋のあり方や、民間と連携したまちづくりのあり方について、「シンポジウム」、「ワークショップ」、「御堂筋の未来をビジュアル化する社会実験」などを通じて議論し、いただいたメッセージ等をもとに御堂筋の将来ビジョンを取りまとめることとしました。



御堂筋の将来については、国土交通省の管理の時代から現在に至るまで様々なかたちで議論、検討が行われてきました



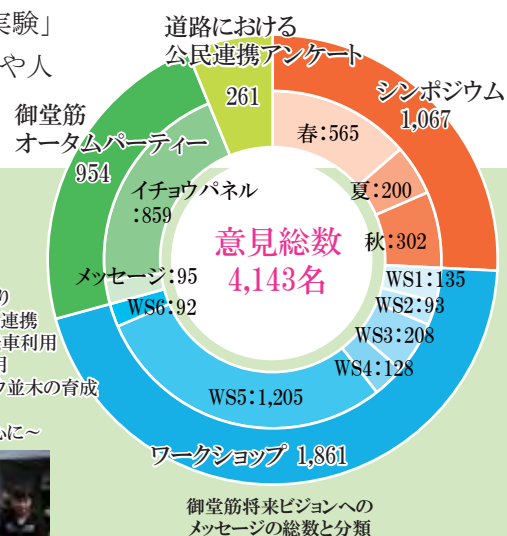
【御堂筋将来ビジョンへのメッセージ】

「シンポジウム」「ワークショップ」「御堂筋の未来をビジュアル化する社会実験」などを通じて、市民や学識経験者、専門家の方々から、御堂筋の空間再編や人中心の道路への転換を求めるメッセージを数多くいただきました。

～主なメッセージ～

- 短期、中期的な取組みとして側道を人が集える空間に
- 長期的な取組みとして、車を排除し人が集える空間に
- 世界の最新モデルを関西から発信
- 継続的に空間再編に取り組む
- 歩行者通行空間を広げ歩行者が安全・安心で快適に通行できる空間 など

（ワークショップ）
WS1：人中心の道路づくり
WS2：道路における公民連携
WS3：安全で楽しい自転車利用
WS4：地下空間の利活用
WS5：世界に誇るイチョウ並木の育成
WS6：水の都・大阪
～道頓堀川を中心に～



【メッセージから導き出された将来ビジョンのコンセプト】「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」

御堂筋将来ビジョンの策定

御堂筋完成80周年記念事業推進委員会として取りまとめた案をもとに、今後行政案を策定する予定。

4. 御堂筋将来ビジョン

Vision

車中心から、人中心のストリートに転換を図る空間再編の推進と
その実現に向けた羅針盤としての御堂筋将来ビジョン

コンセプト

【道路空間】

「世界最新モデルとなる、人中心のストリートへ」
～まちとつながり、人がつながっていく新たな価値を創出する空間へ～

車中心から、人中心のストリートへ転換することで、新たな体験ができる空間を生み出し、その空間を通じてストックした「人・モノ・資金・情報」といった都市資源の交流を促し、新たな魅力や価値を創出するとともに、それらを世界に発信していくことが可能になります。

既存の「道路」の枠にとらわれない新しい機能を導入することで、「多様な人材が集う観光・MICE都市」「出会いが新しい価値を生む多様性都市」「世界に誇れる自慢の都市」「多様な楽しみ方ができる周遊・滞在都市」などの大阪がめざすべき未来の都市像の実現に期待が持たれます。

【道路空間の取組み】

人中心～フルモール化

御堂筋完成100周年をターゲットイヤーとした
検討と実践を推進

【都 市】

都市のリノベーション～関西・大阪の成長

～都市のリノベーションを推進するトリガーとしての道路空間の再編～

※フルモール化に向けては、都心部全体の交通ネットワークの再編などに取組んでいく必要があります。



《御堂筋将来ビジョン：3つのシーン》

車中心から、人中心のストリートへという方向性のもとに、その空間で展開が想定されるシーンイメージ（風景）を3つの切り口でまとめています。

人、モノ、資金、情報といった都市資源を呼び込む

1. 大阪の顔にふさわしい 御堂筋

Scene

御堂筋の果たしてきた役割や功績といった過去を振り返るとともに御堂筋を取り巻く現状をふまえ、そして、未来を見据えながら、関西・大阪の成長を促すことができる御堂筋をめざすべく、道路の空間再編の推進とその実現に向けた羅針盤として御堂筋の将来ビジョンを取りまとめています。



都市資源をストックするとともに交流を促す

2. 新たな魅力が体験できる 御堂筋

空間機能の多様化・高度化と世界への発信

3. 都市の成長を支える 多様な機能を備えた御堂筋